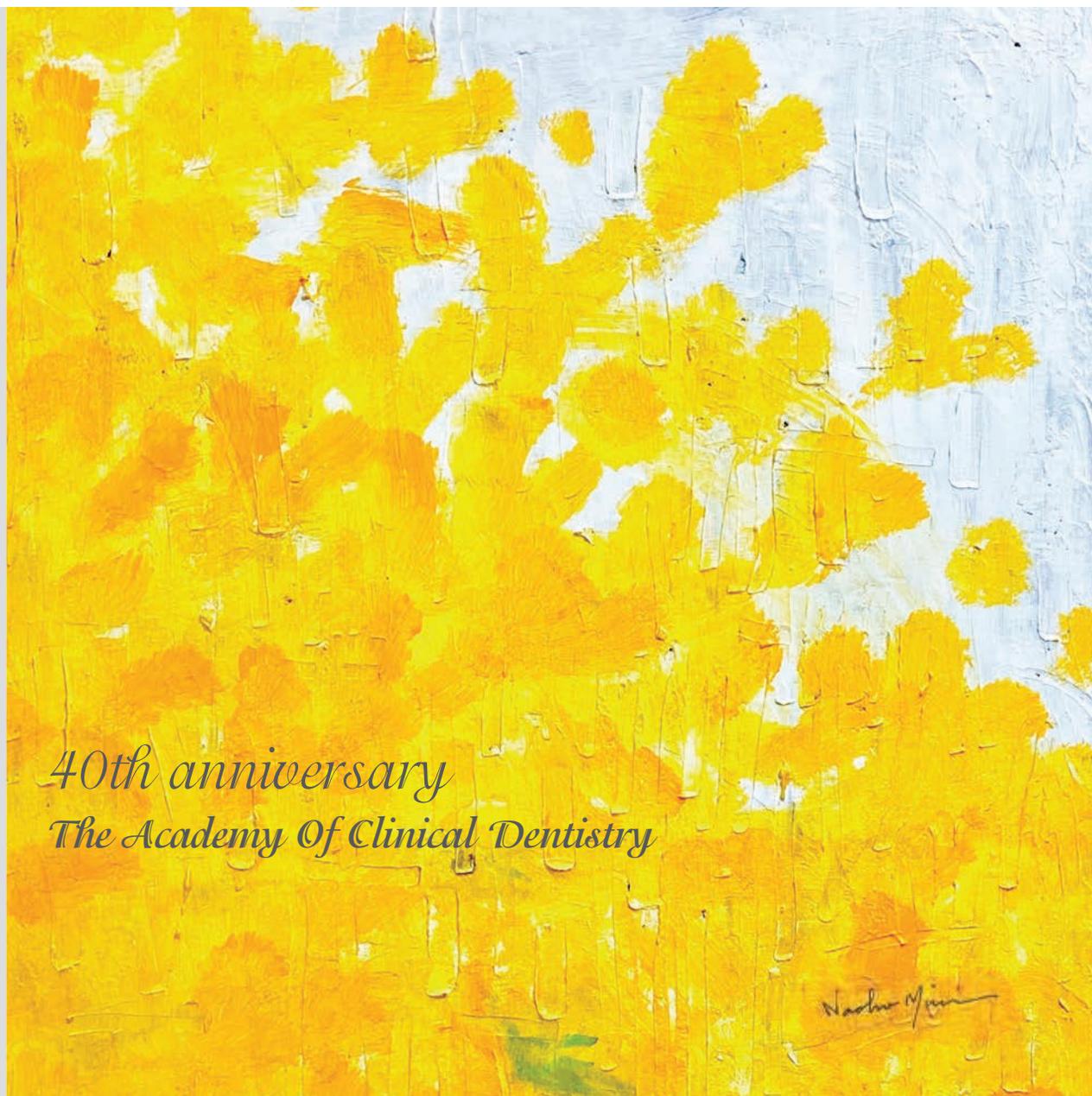


# Newsletter

THE ACADEMY OF CLINICAL DENTISTRY

89

2022.9.16



第21回 特定非営利活動法人 日本顎咬合学会  
咬合フォーラム

会場開催  
2022.10.16. (Sun)

WEB オンデマンド開催(7日間)  
2022.10.20. (Thu) ~ 10.26 (Wed)

参加登録のご案内  
プログラム/演者・演題・抄録



かめるをたしかめる  
特定非営利活動法人  
日本顎咬合学会

第  
21  
回日本顎咬合学会  
咬合フォーラム会場開催  
2022.10.16. (Sun)WEB オンデマンド開催(7日間)  
2022.10.20. (Thu) ~ 10.26 (Wed)

## 咬合治療の原点回帰

～生体に調和した顎口腔機能回復のための理論と臨床～

## ■ お申し込み方法

- ① WEB 申込：参加登録フォームへは下記 URL よりアクセスしてください。  
URL：[https://ago.ac/21th\\_kougou/](https://ago.ac/21th_kougou/)

ご決済方法：クレジットカード・コンビニ決済

- コンビニ決済登録 参加登録締切日：2022年9月30日(金)  
※決済期限：2022年10月7日(金) 期限を過ぎると、お支払用紙は無効になります。
- クレジットカード決済登録 参加登録締切日：2022年10月24日(月)

## ※注意事項※

- 新規ご入会の方は、2022年9月30日(金)までにご入会お手続きをお済ませください。
- 参加登録お手続き後に、「現地参加」「WEB オンデマンド配信参加」の選択をご変更される場合には、「nichigaku@ago.ac」までご連絡ください。

- ②当日受付：2022年10月16日(日) 9:00～13:30

参加費お支払い方法：現金精算のみ

※非会員の臨床研修医・学生は在籍証明書のコピー、学生証などをご提示下さい。



## ■ 参加費

会員	歯科医師	¥5,000
	歯科技工士	¥1,000
	歯科衛生士	
	歯科助手	
	準会員	無料
非会員	歯科医師	¥8,800 (税込)
	歯科技工士	
	歯科衛生士	
	歯科助手	
	臨床研修医・学生	¥1,100 (税込)

※ご入金後はキャンセル・ご返金はできませんのでご注意ください。

※参加ご希望の学生・臨床研修医の方は、下記の書類を当学会事務局まで、E-mailにて添付ご提出ください。

学生・大学院生：学生証のコピー

臨床研修医：所属先から発行される在籍証明書のコピーまたは、臨床研修医証明書

提出先：日本顎咬合学会事務局 nichigaku@ago.ac

## ■ 単位取得

10単位

※WEB オンデマンド配信参加の場合、講演3本+ディスカッション1本の計4本の講演動画を全て視聴していただくことで単位の取得となります。

## ■ WEB オンデマンド参加

WEB オンデマンド配信 (7日間)

2022.10.20. (木) ~ 10.26 (水)

※配信期間前に「ログイン情報 (ID、パスワード、URL)」を E-mailにてご案内いたします。

## ■ 会場参加

軽井沢大賀ホール

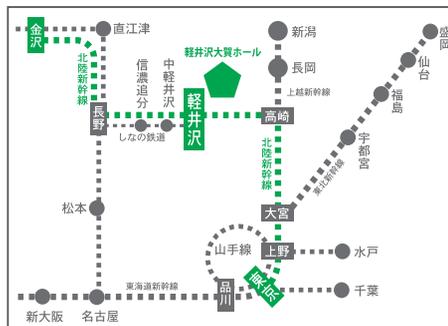
(長野県北佐久郡軽井沢町)

<https://ohgahall.or.jp/>

2022.10.16. (日)

9:30～15:20 (受付9:00開始)

※会場参加の方もWEB オンデマンド配信を聴講することができます。





座長

古谷野 潔

九州大学大学院歯学研究院  
 歯科先端医療評価・開発学講座 特任教授  
 九州大学名誉教授

## 臨床エビデンスに基づく顎関節症治療

講演① 9:45 ~ 11:00



窪木 拓男

岡山大学病院  
 デンタルインプラ  
 ントセンター  
 センター長

いわゆる顎関節症の治療法を論じる際に、一番重要な観点は、Evidence-based Medicine (EBM)としての捉え方であろう。動物実験等の基礎研究の結果や臨床家の経験に基づく意見 opinion ではなく、臨床現場における「現実 realism」を伝える証拠に基づいて、臨床を組み立てる姿勢が不可欠と言える。このようにして作られたステートメントが、「米国歯科研究学会 (AADR) による TMD 基本声明に対する日本補綴歯科が学会の基本姿勢」である。日本補綴歯科学会では、この AADR による顎関節症の診断と治療に関する基本声明が、現時点における最も標準の見解であり、これに従って顎関節症の診断と治療が行われるかぎり、それが多くの顎関節症患者にとって福音となるものと認め、ホームページ < <https://www.hotetsu.com/s/doc/aadr1.pdf> > 等で公表している。その基本方針は、顎関節症治療においては、咬合再構成など非可逆的治療を避け、保存療法を優先させることである。しかし、この基本方針は、必ずしも、咬合と顎関節症には関係がないと述べているわけではなく、顎関節症を治療するために咬合治療を行うことの妥当性が十分認められないと述べているだけなのである。一方、顎関節症の症状が消退した患者において、矯正治療をしたり、フルマウスリコンストラクションを行うことは十分あり得るわけであるが、その際の注意点に関しては十分理解されているとは言えない。本公演では、これまでの顎関節症治療の考え方をまとめるとともに、その上で、下顎位の変化を与える必要がある際の考え方について、現在の知識をまとめて紹介したい。

com/s/doc/aadr1.pdf > 等で公表している。その基本方針は、顎関節症治療においては、咬合再構成など非可逆的治療を避け、保存療法を優先させることである。しかし、この基本方針は、必ずしも、咬合と顎関節症には関係がないと述べているわけではなく、顎関節症を治療するために咬合治療を行うことの妥当性が十分認められないと述べているだけなのである。一方、顎関節症の症状が消退した患者において、矯正治療をしたり、フルマウスリコンストラクションを行うことは十分あり得るわけであるが、その際の注意点に関しては十分理解されているとは言えない。本公演では、これまでの顎関節症治療の考え方をまとめるとともに、その上で、下顎位の変化を与える必要がある際の考え方について、現在の知識をまとめて紹介したい。

## 全部床義歯に与える咬合 一何を見て何を判断するのか一

講演② 11:05 ~ 12:20



市川 哲雄

徳島大学大学院  
 医歯薬学研究所  
 教授

無歯顎あるいは多数歯欠損の場合に、咬頭嵌合位を含めた咬合を補綴装置に付与することになる。正確には、失った咬頭嵌合位に相当する顎口腔機能に調和したその人の持っている中心咬合位を記録し、それを補綴装置に付与することである。この場合の咬合には、人工歯の排列位置を規定する咬合平面の位置、頬舌側位置、垂直的・水平的顎間関係という私がマクロの咬合と呼んでいるものと、ミクロの咬合と呼んでいる咬合様式や咬合接触という2つの大きな事項がある。有歯顎の咬合の問題の多くは、ミクロの咬合ということになる。もしそれに問題があれば、その症状は咬合面、筋肉、顎関節、歯

根膜 (インプラントの場合には周囲骨) に現れ、多様である。一方、全部床義歯の場合の多くは、義歯の維持、支持が十分ではなく、咬合に問題があった場合には、粘膜の痛みあるいは義歯の動揺といった現象として現れる。あるいは患者にとっては「噛めない」と一括りに表される。さらに義歯の咬合の問題は、Hanau の咬交の5要素のように考慮する事項がトレードオフの関係にある。また中長期の予後を考えた場合にも機能回復と残存組織の保存もトレードオフの関係かも知れない。本フォーラムでは、全部床義歯の咬合を考える上で、考慮すべき事項、顎口腔機能回復のための全部床義歯に付与する咬合について、何を見てどう判断し、どう付与するかの考え方を整理する予定である。

## 咬頭嵌合位の安定 ～咬合支持と臼歯離開咬合から考察～

講演③ 13:30 ~ 14:45



本多 正明

本多歯科医院

21世紀に入っておよそ四半世紀、今日のデジタルデンティストリーの発展は目覚ましく、その結果、補綴治療やインプラント治療においても良好な結果が誌上や講演会等で数多く報告されており、さらなる結果を得るため、日々様々な研究が続けられている。その一方でインプラント治療におけるトラブルも多くみられるのも事実であり、このトラブルへの検証は埋入時の手技的なものを除けば炎症のコントロールに関するものが大半であり、その原因追究と対応がトピックとなっている。しかし一方で咬合圧の負担過重が原因となり、力 (咬合) のコントロールが上手く出来ずにトラブルが起きている症例も多いと思われる。本来、欠損歯列に対し補綴治療をする目

的は、口腔機能の改善および回復であり、その目的は歯を含めた残存組織の保全である。インプラント治療もあくまでも欠損歯列への補綴的対応法の一つであり、他のブリッジやデンチャーもインプラントと同様に機能回復という目的は同じである。咬合と機能の回復に際し、実践的に最も重要なことは咬頭嵌合位を安定させることである。その咬頭嵌合位は臼歯による咬合支持であり、この臼歯に与える適正な咬合面が安定した下顎位を維持する。ここから姿勢、さらには嚥下や呼吸の維持にも良好な影響を与えることにより、患者のQOLを向上させ、ひいては健康寿命の延伸に寄与するものと考えられる。今回は咬頭嵌合位の安定について咬合支持と臼歯離開咬合に的を絞って考察する。

ディスカッション 14:50 ~ 15:20

## ホームページを活用しよう!!

2022年7月1日より、ホームページを大幅にリニューアルいたしました。  
今回のリニューアルでは、デザインやページ構成を見直し、スマートフォンやタブレットでの表示にも対応、各デバイスから閲覧できるように改善しております。



<https://ago.ac/>

### トップページ



### イベントページ



- ①「イベント」ページでは「カテゴリ」「開催場所(方法)」「対象者」「キーワード」で検索ができます。
- ②開催日が近い順に大会・研修情報が表示されます。

### 特設ページ



学術大会、研修会、咬合フォーラムなどの最新情報や参加登録はトップページ画像をクリック! 各イベントの特設ページへ移動します。

### スマートフォン タブレット表示

スマートフォンやタブレット、またパソコン上でも、画面の幅に応じて最適なレイアウト表示をするレスポンシブコーディングを実装しました。

